

B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類

アメリカネナシカズラ

ヒルガオ科 *Cuscuta campestris*

原産地：北アメリカ

生態系被害防止外来種リスト：その他の総合対策外来種

特徴

つる性の一年生寄生植物。周囲の植物に巻き付きながら寄生し、栄養をもらう。葉緑素を持たず、葉は退化して全体に淡黄色をしている。

茎 : 全体に淡黄色をしており、ラーメンのような見た目。よく分岐し、周囲の植物に複雑に絡み合う。

花 : 直径 3mm ほどの白色の花をかためて密につける。

繁殖 : 種子繁殖、栄養繁殖ともに旺盛。花を密につけ、大量の種子を形成することから一度定着してしまうと土中にシードバンクが形成されてしまう。また千切れた茎の断片からも生育するために路傍の草刈り等で拡散してしまう恐れもある。



影響 : 周囲の植物に寄生して養分を得ることから、在来植生の衰退や農業被害が懸念される。また黄色の見た目は遠くからでもよく目立ち、本来の景観を大きく改変させてしまう。

侵入状況 : 奄美大島では低地部、海岸部を中心にまばらに侵入している。一部、山域の林道沿いでも侵入が確認されている。

対策状況 : 山域の林道沿いにおける生育地点で、駆除作業を実施している。

防除のコツ : 夏の間中、開花・結実が確認されるが、できる限り種子がつく前に駆除作業を実施したい。周囲の植物を含めて丁寧な刈り取り作業を実施する必要がある。

リンク : 鹿児島県外来種駆除対応マニュアル アメリカネナシカズラ
https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20231017091557-1.pdf